

STUDENT EXCHANGE NEWS



近江兄弟社中学・高等学校 国際交流委員会・留学生センターニュース

ISSUED BY THE INTERNATIONAL EXCHANGE COMMITTEE, OMI BROTHERHOOD SR. & JR. HIGH SCHOOLS

ただ今留学中

現在、7名の高校生達が、オーストラリア、ニュージーランド、タイの姉妹校へ留学中です。そのうちの5名から留学中のレポートが届きました。

適度にハードな生活

P13 岸 龍生
姉妹校留学

留学先：Bethlehem College(ニュージーランド)

期間：2016/7/16 ~ 2016/10/8

ニュージーランドに来て、早くももう半月ほどが経ちました。本当に全くといっていいほど、日本語を使用する機会がないので、そろそろ日本語を忘れそうです。日に日に日本語の語彙が失われているのではと不安になります。

僕にとっては初めての海外なので、今までになく忙しく大変な半月でしたが、一番忙しく大変だったのは、間違いない初日だったと思います。1日目の密度が尋常ではありませんでした。

移動もなかなか大変で、利用料金の問題からスマートフォンは持って行かないことになったのですが、その影響で成田空港での乗り換えやオークランド空港に着いたとき等の節目での連絡が一切できませんでした。入国カードの記入と入国審査の順番待ちで、時間が掛かってしまったのですが、そのことをベツレヘムカレッジのミラーさんに伝えられなかったりと、少し不便でした。ミラーさんに、「遅かったね。心配したよ。」と第一声をもらったときは、さすがに申し訳なかったです。

そして、到着後、まずはまた移動ということで、ミラーさんに車で数時間かけて送ってもらいました。景色も何もかも目新しく、軽く感動していた所に、ミラーさんに、「どう？日本と違う？」と聞かれました。正直、違うなんてものではありませんでした。車から見えるものは、道路と道ばたの木、農地、牧草地に空と、「見えるもの」自体は日本とさほど変わらないのですが、なにせスケールの桁が違う。牧草地ひとつあたりの面積などは、一体日本の何倍なのか想像も出来ません。あまりに広く、高い建物もないので、空まで大きく感じられたくらいです。大きすぎる空から圧迫感を与えられるというのは初体験でした。地が似通っていれば、それだけ両者の違いが際立つというのは、今回の留学で得た教訓の一つです。日本での「農地ばかりでなんにもないなあ」というような感想ではなく、「雄大な自然がただ、そこにある」

というある種の感動にも似た感想を抱きました。

その後も、ホームステイ先に到着したと思ったら、ファミリーが出かけていて、仕方ないので、すぐ近くのミラーさんの家にお邪魔したら、その同じ年の息子さんがポケモンのリーフグリーンをやっていました。

3時頃に連絡があり、ホストファミリーと挨拶をしました。初めから気さくだったの良いのですが、「よし、じゃあ海に行こうか！」と挨拶をして20分くらいで、連れ出されたり、帰ってくれるなり、「泳ぎなくなっちゃったな。知り合いにプールを持っているやつがいるから、行こう！」とまた連れ出されたり。「ちょっと待ってください！今から泳ぐんですか？」と聞くと、「ん？？ああ、温水プールがだからね、そいつのプール。」と返されて、そういう

ことじゃねえよ！と心の中でツッコんだり、大忙しでした。そこでも年下のホストシスターやブラザーにホースで冷水をかけられたり、叩かれたり、なかなか強烈な洗礼をうけましたが、今も楽しくやっています。

別のホストファミリー先の方々も、全く問題はありませんでした。一組目のホストファミリーと出会って2日でまた変わるというのは、少しストレスではありましたが、特に影響はなかったです。その家のロジャーさんはよく映画を見ていて、テレビに「NETFLIX」という映画視聴サービスが入っていました。「これ、日本の映画だろ？大好きなんだ！」とロジャーさんが勧めてくれたのが、『星を追う子ども』でした。英語版のタイトルは長すぎて覚えられません。その作品は僕も大好きで、何度か繰り返し見て内容を覚えていたので、英語もすんなり入って見ました。どことなくジブリっぽい感じでメッセージ性もあって、面白いのでおすすめです。ついでに、同系統の作品として『ねらわれた学園』も薦めておきます。こういう趣味のような部分で外国の人と、交流できるとは、思ってもみなかったもので、かなり嬉しいハプニングでした。

5日目には生活にもそこそこ慣れ、余裕が出て



きて、町に買い物に出かけました。物価の違いにびっくりしました。1ドル100円計算でも、500mlペットボトルのコーラが、大体日本の二倍ほど。日本の安いスーパーなどで買った場合を考えると、その差は3倍にも4倍にもなります。かと思えば、スポーツショップに大型のナイフが、20ドルほどで売っていたりと、価格設定の基準がよくわかりません。寿司も食べに行きましたが、一貫2ドルでした。寿司ネタは照り焼きチキンだの、フレッシュアボカド（本当に切ったアボカドだけ）だの、日本ならおよそカップ寿司くらいでしか、お目にかかれなような、変わりダネばかりでした。味は、どちらかというと、バイキングの寿司コーナーをイメージすると近いと思います。まあ、厨房にいた人が、どうみても中国人だったので、そんなもんだらうという感じでした。無茶苦茶に感じる価格ばかりなので、気軽に買い食いもできません。

学校も始まり、いよいよ本格的に留学が始まった感じがします。必修教科の英、数、理はかなり強敵で、辞書を片手に格闘しています。一番の難敵は理科です。英語はそもそも英語を学ぶので、除外して、数学も、数式や計算法などは同じなので、数字をみれば大体分かるのですが、化学に至っては、元素名から全部英語なので、辞書がなければ、ただの暗号文と化しています。

そんな感じで、毎日適度にハードな生活ですが、それも時期に慣れていくと思います。日本に帰りたい気持ちもあるにはありますが、「面白いことがあった土曜の夜に、日曜日をすつとばして、月曜日早く学校に行って友達に話したい」みたいな気持ちです。とにかく、今のところはホームシックとは無縁の生活でまだまだ頑張っていけそうです。(2016/8/8 受信)

タイの母の日

111 珠久 渚

姉妹校交換留学

留学先：Roong Aroon School(タイ)

期間：2016/7/16 ~ 2016/8/27



6週間のタイ留学も残り2週間となりました。来週からルンアルン学園は3週間の休暇に入るの、帰国まではホストファミリーや友達とゆっくり過ごせます。

8月12日は、タイの王妃の誕生日であり、母の日でした。町中がライトアップされ、王妃の写真が飾られていました。装飾には王妃のシンボルカラーである水色が使われます。水色のTシャツを着ている人をたくさん見かけました。日本では母の日にカーネーションを贈りますが、タイではジ

ヤスミンの花飾りを贈るそうです。学校でも母の日のイベントがあり、何人かの生徒が全校生徒の前でお母さんへの手紙を読んで、その後母親のもとに行って花と手紙を渡してハグをしていました。どのお母さんもととても嬉しそうで、幸せそうでした。とても素敵で感動しました。

一方、タイの南部ではこの日を狙って8件ものテロが起こりました。その日はタイのテレビで現場の生中継が放送されていて、警察や警察犬がたくさん映っていました。今回、バンコクでは起きていませんが、観光地など人の多いところは行きづらくなりました。バンコクは大都会なので正直すごく怖いです。これ以上テロが起こらず、皆が安全に過ごせることを願っています。

ホストシスターのお姉さんは料理が得意で休日には一緒にご飯を作りました。トムヤムガイという鶏肉を使ったタイ料理です。辛さは控えめにしておいしく作れました。ホストマザーが日本の卵焼きが好きだと言っていたので、私はだし巻き卵を作りました。美味しいと言われてもらって良かったです。ホストシスターのお姉さんと一緒に料理ができたことがすごく楽しかったし、嬉しかったです。私は料理が苦手だけど日本料理もまた作ってあげたいと思いました。タイ料理もあと何品か教えてもらって、日本に帰ったときに私の家族にタイ料理を作りたいです。

ルンアルン学園の最後の登校日には卒業式をしていただきました。アイスやフルーツ、タイのお菓子を用意してもらって、ホストファミリーや先生、友達と楽しい時間を過ごしました。お世話になった人たちに感謝の言葉を伝えたり、日本についてのプレゼンテーションをしたり、タイの伝統の衣装を着せてもらったりしました。みんなでタイの踊りを踊りました。賞状もいただいてすごく嬉しかったです。来年ルンアルン学園から兄弟社に来る留学生にも、私たちがタイでしてもらったように、みんなから優しくされ、友達をたくさん作り、色んな話をして楽しんでほしいと思います。まだ誰が兄弟社に来るか決まっていませんが、早速、「兄弟社に行きたい!」「来年はよろしくね! (笑)」と言っている友達が何人もいるので来年がすごく待ち遠しいです。(2016/08/14 受信)

本当に優しいタイの人たち

P23 大橋舞妃月

姉妹校交換留学

留学先：Roong Aroon School(タイ)

期間：2016/7/16 ~ 2016/8/27

タイに来て4週間が経ち、残り2週間となりました。最近では雨期の時期だけあって雨の日が続いています。

学校は2週間の休みになるので、最後の日に送別会がありました。送別会へはホストファミリーや友達、先生方が来てくれました。

私はタイの伝統的な衣装を着て、習ってきたタ

イダンスを披露しました。途中からは友達や先生と一緒に踊りました。タイの学校で授業を受け、たくさんのことを学ぶことができたことや、友達ができたことを嬉しく思います。日本語クラスを選択している1年生から3年生の生徒に日本についてのプレゼンテーションをしたとき、「日本に行きたい」「近江兄弟社に行きたい」と言っているのを何度も聞きました。留学をしたら日本のことも知ってもらいたいと思っていたので、プレゼンテーションを通してさらに日本に興味を持ってもらえてよかったです。住んでいる場所は遠くても、そこに私の友達や出会った人達がいると思うだけで近く感じます。この4週間、たくさんの人の優しさに支えられてきました。初めて出会った人でも、日本からタイに来てくれて嬉しいと言ってくれました。それだけでなく、私のことを気にかけてくれたり、分からないことなどいろいろなことを教えてくれました。タイ人は本当に優しい人が多いということを自分自身で感じる事ができました。



8月12日は、母の日でした。その日タイ各地で爆発が起きました。ホストファミリーと行こうとしていたところも爆発が起きていたので心配になりました。

聞いてみると「今日は母の日であり王妃の誕生日だから反政府の人達がこんなことをしている」と教えてくれましたが、あまり気にしてないということが疑問に思いました。幸い、私達には何もなかったのですが、このようなことがあったことは日本に帰国してからも忘れないようにしようと思えました。

残り2週間、ホストファミリーとの生活を一日一日、大切に過ごしていきたいと思います。(2016/08/14 受信)

オーストラリアを学ぶ

P13 今村 光希

姉妹校中期留学

留学先：Citipointe Christian College(オーストラリア)

期間：2016/7/16 ~ 2016/8/27

オーストラリアの生活も4週が過ぎようとしています。相変わらずオーストラリアは、寒いです。しかし、日本の冬とは違って風だけが冷たいので、風に当たらなければとても過ごしやすいです。

オーストラリアでは、英語だけでなくオーストラリアの文化も学んでいます。学校では来週がテスト週間でオーストラリアについてのレポートを制作しています。学校だけでなく、ホストファミリーがたくさんのことを教えてくださいます。先

日はパブロバを作ってくださいました。オーストラリアには、たくさんの移民の方がいるので、様々な文化が混じっています。そこもオーストラリアの文化の面白いところだと思います。週末はホストファミリーが様々な場所へ、連れて行ってく



ださいます。動物を見に行ったり、夜景を見に行ったりしました。コアラやカンガルーといった、オーストラリアの

有名な動物を見ることができました。

先日、EKKAという大きなお祭りに行きました。日本のお祭りとは比べものにならないくらい、規模の大きいものでした。ライドアトラクションもあるのでお祭りというより、遊園地に近いです。エンディングで花火を見ました。日本の花火と違って、音楽に合わせて上がります。目の前で上がるので花火というより、爆発みたいでしたが、迫力はすごかったです。

オーストラリアで生活していて、一番楽しいことはオーストラリアと日本の違いを見つけることです。日本でも取り入れてもらいたいと思っているのが、モーニングティー制度です。オーストラリアでは、モーニングティーとランチタイムという、ご飯の食べられる時間が各40分、2回あります。ゆっくりごはんを食べられるので、とても健康的でいいと思いました。

来週は、テスト期間です。オーストラリアのレポートの提出やスピーキング、リーディング、スピーチ、ライティング、グラマーなどのテストがあります。オーストラリアは、暗記よりも自分自身で表現することが大切になっているそうです。日本のように範囲を勉強するのではないので、少し心配ですが、頑張りたいと思います。

オーストラリアの生活も残り2週間で切りました。残りの生活を大切に、たくさんのことを吸収し、日本での生活に生かしていきたいと思いました。(2016/08/14 受信)

QLD州最大のお祭りEkka!

G15 田中 望貴

姉妹校中期留学

留学先：Citipointe Christian College(オーストラリア)

期間：2016/7/16 ~ 2016/8/27

オーストラリアに来て4週間が経とうとしています。そこで、QLD(クインズランド)州最大のお祭りEkkaに行ってきたので、それについて紹介したいと思います。

Ekkaは毎年8月に1週間だけ開催されるお祭り

で、このお祭りには多くの外国人が訪れます。



Ekka には、いろいろな屋台や多くの絶叫マシーンがあり、馬や牛などの動物もたくさん見ることができ、子供から大人まで楽しむことができます。

また、ここには、ショーバッグというものがあり、これは、日本でいう福袋で中身が全て見られるため自分の欲しいものが手に入ります。そして、夜になると馬や牛などの動物によるショーや、車のレースや自転車のアクロバットな演技を見たり、歌手の実演を聞いたりして楽しめます。私は、絶叫マシーンにいくつも乗って、たくさんのショーバッグを買って楽しみました。

この3日後には、Movie World にホストファミリーとホストマザーといってきました。そこは USJ

みたいところで、とても楽しかったです。なぜなら、そこでも絶叫マシーンに乗ることができ、お土産などもいっぱい買えたからです。最も楽しかったのは夕方に行われたショーで、とっても可愛い映画館のキャラクターが見れて本当に良かったです。そして、家ではホストファミリーに日本食の赤飯と卵スープを作りました。それに対してホストファミリー、マザー、二人のシスターたちに喜んでくれたので本当に良かったです。残ったご飯はホストファミリーにプレゼントすることにしました。ホストマザーがとても喜んでくれたので嬉しかったです。また作りたいと思いました。

今週はテスト Week で、Reading、Writing、Speaking、Grammar のテストがあります。それに向けて一生懸命勉強しなくてはならないので、とても大変です。

この留学も残り 2 週間になりました。ホストファミリーとも楽しく過ごしたいと思います。

(2016/08/14 受信)

ホストファミリーの感想

7月4日(月)から7月10日(日)の6泊7日の日程で、オーストラリアの姉妹校 St. Patrick's College の一行(生徒14名と先生4名)を受け入れました。ホストファミリーの感想が寄せられましたので、紹介します。

また会いたいな

J24 荒木 雄介
留学生: Dylan Pether



7月10日に16歳になった『ディラン君』が僕のホストファミリーでした。タスマニアならではの発音なのかディラン君の親しげなしゃべりによるものかはわかりませんが「ナイナイ~(good night)」「グラマ (grandmother)」と授業で習った発音ではない言葉でしゃべるのが僕には新鮮でした。

ディラン君は漫画の『ワンピース』が大好きで、一緒にDVDを観ました。それは日本語でしたが、だいたい意味が分かるようハラハラドキドキする場面は僕と同じでした。オープニング曲を「ハリガネノ ウデヲ ガキアクネー(ありったけの夢をかき集め~)」と歌っているのを聞いて、間違っている日本語を馬鹿にする気は全然起きず、メロディは合っているので僕も途中から一緒に歌い楽しいひと時となりました。ゼスチャーや表情で伝え合えたことがたくさんありました。でもやっぱり英語はもっともっと勉強したほうが良いと感じました。今回の体験が僕の血となり肉となり僕自身の歴史の1ページに刻まれ、将来の僕につながっていく気がします。

あきらめないで努力すること

J22 上野 聖真
留学生: Mitchell Berryman



ぼくはホストファミリーをして、あきらめないことの大切さを学びました。

初めて留学生と出会ったとき、何を話せばいいのかわからなくて、全然

会話が成立していませんでした。でも、好きなことや嫌なことははっきり言ってくれて良かったです。また、毎日いろいろなところに行っていっぱい遊びました。そのおかげで、たくさんしゃべることができました。毎日一緒に過ごしているなかで、日本の文化を紹介したり、タスマニアのことについてたくさん教えてもらったりしました。

ぼくはこのような経験から、どんなことでもあきらめずに努力することが大切だと思いました。これからは、どんなことにもあきらめずに努力していきたいと思います。

